

# 映え古墳番付

Date

No.

～群馬の墳セブン～

伊勢崎第二中学1年子組

鈴木 声

## 石研究の目的

古墳時代、西の大和にもひけをとらない繁栄が二、群馬にはあった。

だが今はどうだろう？全国的に見ても知名度、見込み度ともに古墳時代の繁栄には及ばない。そこで僕はかつての繁栄を取り戻すために光輝かしい「古墳大国群馬」をたくさんの人に知ってもらい、興味を持ってもらえるような古墳のめせ方を研究してみたいと思った。

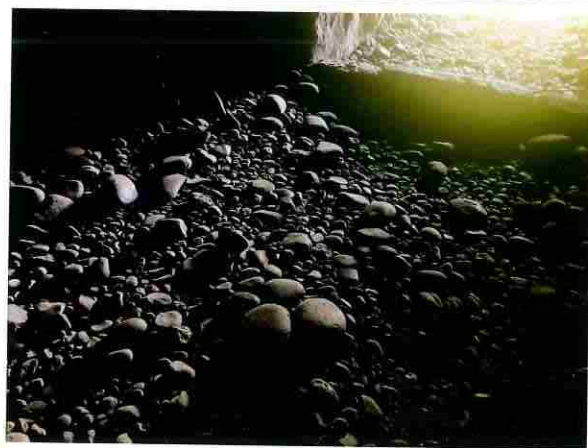
## 研究方法

①東国文化副読本を見て行ってみたい古墳をピックアップする。

②古墳に行く前にその古墳の近くにある図書館や資料館などに出向き、事前調査をする。

③令和の時代たくさんの人に情報を届けるSNSの力を使うのが効果的だと考え、SNSで決める写真が撮れるようさまざまな角度から古墳をたんのうする。

④石研究報告は古墳に興味がない人でも楽しんでもらえるように豆知識を取り入れたりと楽しく読める物にする。



菅見音塚古墳の石室内部中





# 石研究報告

<エントリー-No.1>

## 白石箱形山古墳

前方後円墳  
全長140m 5世紀初め



### 解説

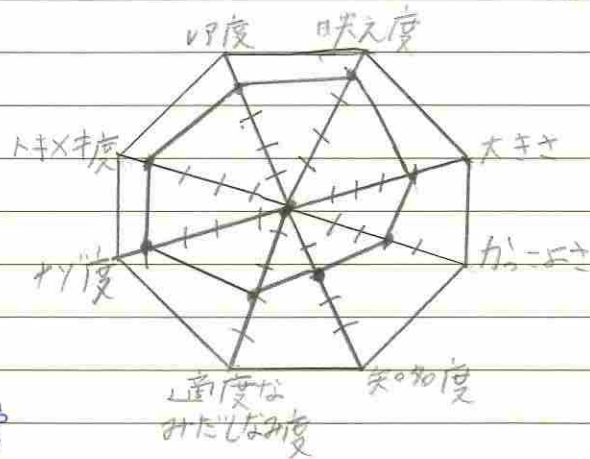
この古墳は1933年に発掘調査が行われ、後円部に埋葬施設が見つかった。そこから銅鏡の他、たくさんの石製木製造品が出土。その他埋葬施設の上からは甲冑や家を表した形象埴輪が出土しており、それらは東京国立博物館に収蔵展示されている。

なかでも二階建ての家形埴輪はここでしか見つからず、さらに鈴付刀子把という大陸産でしか見つからない儀式に使う小刀の鞘が出土している。



### 八角墳グラフ

※日突入度は30点満点、  
その他は10点満点として考える。



72点

青すぎる空と草木を足踏らせるお風。  
墳頂への一本道を少年は馬駆けてゆく。

## 古墳まめ知識

へ上手な埴輪職人の見分け方

埴輪にも作、た人が「上手」かどうか見分けるポイントがある。元々馬にいた職人はハケを横に入れていたので線が平行でない。一方近畿から呼び寄せられた職人は縦にハケを入れているので平行な線が書けている。つまり縦にハケを入れている職人が上手な埴輪職人なのだ。





<エントリー-No,2>

# 七輿山古墳

前方後円墳  
全長145m 6世紀前半



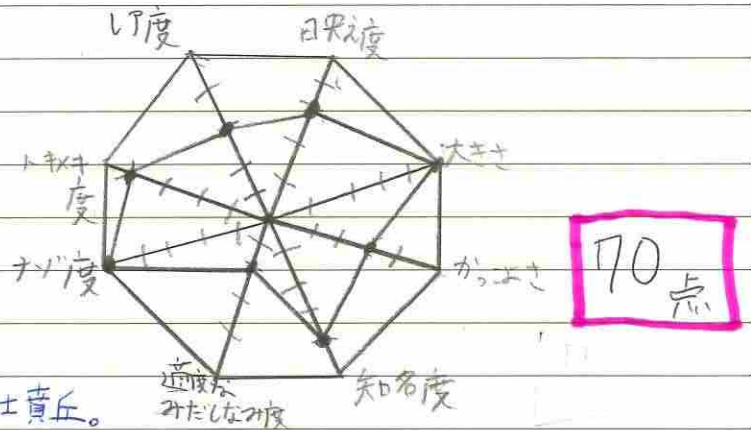
## 解説

2018年早稲田大学による地中レーダー調査によって、大規模な石室の存在と全長が145m長がたことが判明し、6世紀前半の前方後円墳では東日本1位の規模であることが分かった。

出土した円筒埴輪は直径が40cmを超え、高さも1mを超える非常に大型なもので、突帯が七条八段めぐっていた。大型円筒埴輪は、天皇陵クラスの古墳からしか出土していないため、七輿山古墳の埋葬者も大和朝廷と深い関わりがあったことが考えられる。



## 八角土賣グラフ



ヒス色のじゅうたんがめい、ばいしかれた土賣丘。  
うしろくに手をのばす松が、いびつな景観を作っている。

## 古墳まめ知識

### ～羊太夫伝説～

奈良時代に多胡を貝島した羊太夫は、八束の小月皇という神童の引く天馬に乗って朝廷へ日参していた。ある日羊太夫は悪ふざけで屋敷中の小月皇の白羽を抜いてしまった。怪しむ神通力を知り天馬が走らず朝廷へ日参できなくなりました。朝廷は謀反を疑い討伐軍を派遣、城をおられた一族と落ち合。た土馬戸所が「落合」という地名になり、羊太夫の女房ら7人が白羽し、それぞれ輿に乗せられたので「七輿山」という名称がついたと伝わっている。



エントリー-NO.3

# 三津屋古墳

八角墳 

全長24m 7世紀後半



## 角塚言説

この古墳は1993年、宅地造成の際に竹林内で偶然発見されたミステリアスな古墳である。

見つかった当初は土墳丘は崩れかかり、石室は石皮剥ぎされ、副葬品も残されていなかったため、あまり注目もされない円墳と思われていたが、その後の調査で八角形の墳形であることが分かり話題となった。

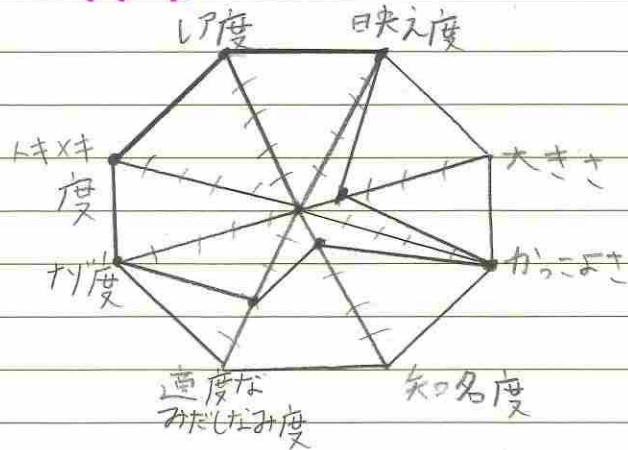
八角形の古墳は、舒明天皇から文武天皇までの古墳、飛鳥時代の数々の天皇が「陵」としており、日本全国で見ても数は少ない。そんなレアな古墳が竹林の中から偶然見つかったことは驚き以外の何物でもない。



盗掘されてしまった副葬品はどんな物だったんだろう？  
石室の様子が  
大木の地から驚く高さの二重の東国で小ぶりながらも大王の墓と同じような八角墳に眠る埋葬者はどんな人物だったんだろう？そんな歴史のロマンを感じさせてくれる古墳である。



## 八角墳グラフ



80点

ここはラピュタか？

今にも巨神兵に出くわさそうな非現実的な風景が、住居地の中に溶け込んでいる。



<エントリ-No.4>

# 糸貫観音山古墳

前方後円墳  
全長97m 6世紀後半



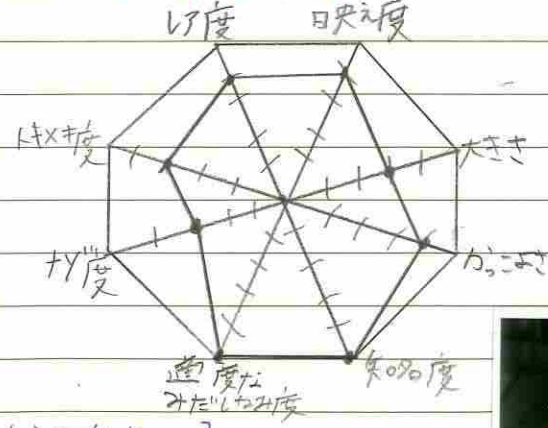
## 解説

この古墳はまず何といっても形が美しい。  
 盗掘をまぬがれた石室からは豪華な副葬品が  
 出土しており、太い帯の金銅鈴付大帯、桂剛丸  
 帯、大帯金鏡、三つの鈴が付いている金銅製三環鏡、  
 金銅製の水差しなどが出土している。  
 とくに大帯金鏡は百済の武寧王陵で出土した物  
 と同型であり、金銅製の水差しも中国山西省で似  
 たものが出土している。  
 このことから埋葬者は大和朝廷だけでなくアジア  
 の国々とも関わりがあったことがうかがえる。



県内一大きい玄室

## 八角土葬ケラフ



舶来の宝物とともに眠る埋葬者。  
 もししたら、海のおこうの国からやってきた人なのかも...?  
 そんな想像を巡らせるのも楽しい。





<エントリ-NO.5>

# 観音塚古墳

前方後円古墳

全長 105m 6世紀末



## 解説

日昭和20年 東京大空襲。この際に防空壕を掘っていた近隣住民の手によって石室が開いた。

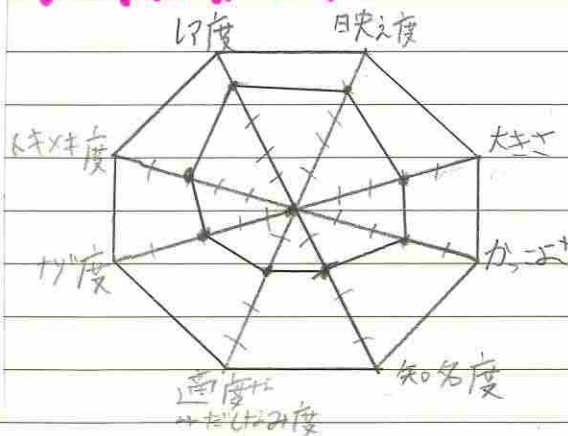
石室からは須恵器、銅腕、大刀、銅鏡、身環、鉄地金銅張花形鉄板などが出土している。

鉄地金銅張花形鉄板は観音山古墳から出土している杏葉とセットで使われていたと考えられている。このことから観音塚古墳と観音山古墳の埋葬者は何らかの関わりがあったと考えられる。さらに銅腕は胡弓村でふたや受け皿まである高級品でそれが2つもあり、100年以上前の祖先から大七に保管していたと思われる。



鉄地金銅張花形鉄板もこれらの出土品は出土した当時、なんと近隣住民達で分室し、それぞれの自宅で保管していた。盗掘される古墳が多いなか、この近隣住民達は出土品を大七に保管した。そのおかげで私達は観音塚古墳の出土品を多く見ることができ、この近隣住民達の選択はすばらしいと思える。

## 八角塚グラフ



石室へ差し込む希望の光。

そこの向かっていたらただひたすらに進んでいく。石室から一歩外に出るとそれはいつもの夏だった。



< エントリー - NO.6 >

# 保渡田古墳群

前方後円墳

全長平均103m 5世紀後半~6世紀前半



## 解説

保渡田古墳群は二子山古墳、八幡塚古墳、薬師塚古墳からなる古墳群である。

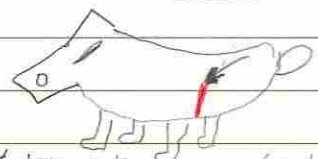
尚、今形が復元されているのは二子山古墳と八幡塚古墳のみである。この2つの古墳には中島という直径18mのマウンドが掘られた場所と見られる物がそれぞれ4つ内堀の中にある。

保渡田古墳群では人物、動物、埴輪が多く見つか、以上の写真を見ると冠をかぶったさげ美豆良の男が女にさかすまを受けている。その後ではカシがその場を歩いているというシーンである。さげ美豆良の男は王を表している、女は巫女を表している。これはどのようなシーンなのか3つの説がある。1つは石室説であるそれは埋葬された王の復活を原意としているという説である。2つ目は王位継承説である。これは埋葬された王から次の王への王位継承を象徴しているという説である。最後は顕彰石室説である。王の生前の輝かしい姿を残しているという説である。

他にも猪を射る男や自持人埴輪など珍しいものが出ており興味深い古墳である。



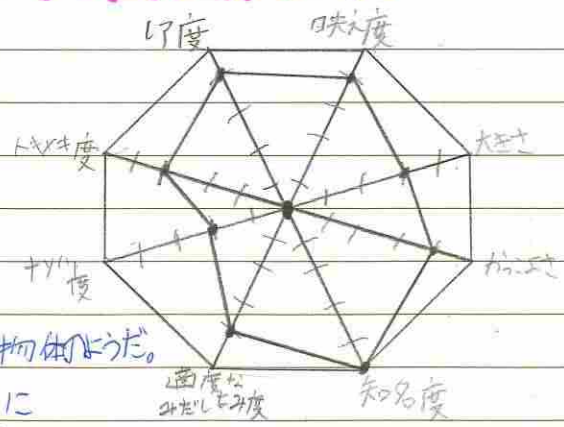
美豆良は当時の男のかみ型  
さげ美豆良は王のかみ型



猪が矢を射られて血をたらすというシーンを糸田かく表している埴輪。

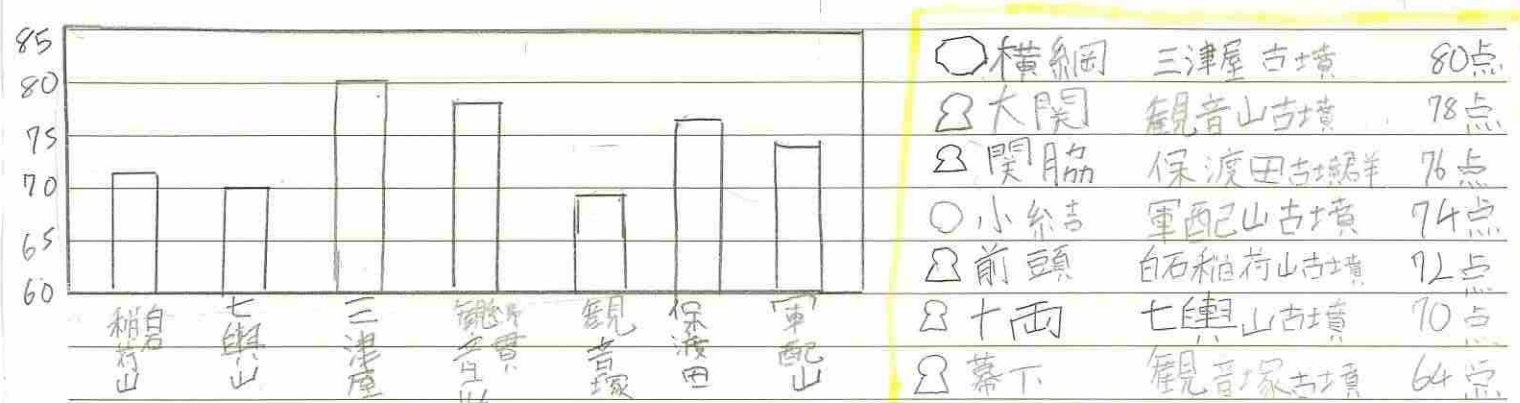


## 八角土室グラフ



これは土地球の物ではない未石室認識飛行物体だ。  
石室から宇宙人が出てきて埴輪とともに地球は攻めるのではないかと思う程  
権大でばく力のなる古墳だ。

# 石研究系吉果



三津屋古墳はしても小さくあまり知られていないが"映人度を重視した点付けではとても見ためにインパクトがあったので横綱となった。観音山古墳はどねかが"突出してたいという訳ではないが見映えや出土品のレパ度など主観で点が高いので大関になった。尚、これらは僕の個人的な見解でつけた番付なので、他の人の番付も見てみたい。

## 石研究の考察

この石研究のために、県内の数々の古墳や資料館に足を運んだが、どこもとても人が少ないことに驚いた。まさにコロナ禍に適したしごとと言えなくもないが、それではいけないと思った。そんな中で、群馬県でも「ハニアプリ」などの面白い取り組みがあることを知った。とくにハニアプリはこの石研究のための古墳めぐりをいっそう楽しいものにしてくれた。

この石研究を始めるまで、僕は強ほど古代史に興味があったわけではない。た"けど、石研究のために資料館で知識を得たり、実際に古墳へ行き"ドキ"キしながら石室に入ったり、そんな夏休みを過ごす内に、いつの間にか古墳研究そのものがとても楽しくなっていた。

僕と同じように古墳に興味がない人にも楽しんでもらえるにはどうしたらいいか、そこを一番工夫しながらこのレポートに取り組んだ。その結果、自分もとても楽しかった。僕はこの《映え古墳番付》を他の人にもやってもらいたいし、それを言売んでみたいと思う。そうや、古墳を楽しむ輪が広がっていったら群馬の古墳はもっと盛り上がるだろう。









# 参考文献

- ・藤岡歴史資料館
- ・群馬県立歴史博物館
- ・観音塚考古資料館
- ・かみつけの里博物館
- ・玉村町歴史資料館
- ・東国文化副読本 群馬県遺産発掘・活用・発信委員会(2014)
- ・古墳大国群馬への歩み 群馬県立歴史博物館(2021)
- ・群馬の古墳を歩く 前原豊 小島敦子
- ・古墳時代I 群馬の遺跡4 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- ・春心から行ける日帰り古墳 日帰り古墳推進委員会(2019)
- ・藤岡歴史館周辺の古墳(白石古墳群)
- ・国指定史跡 観音山古墳 群馬県教育委員会
- ・観音塚考古資料館リーフレット
- ・令和版吉岡町文化財マップ 吉岡町教育委員会
- ・三津屋古墳リーフレット
- ・かみつけの里博物館リーフレット
- ・国境河川地域 玉村町の戦国時代 平成23年度玉村町歴史資料館企画展資料
- ・上野の戦国地侍 武田勝頼の「玉村要塞化計画」と宇津木代久〜 群馬県立女子大学 群馬学セミナー 榎大輔
- ・玉村地域の戦国時代 平成28年度玉村資料館第21回企画展資料
- ・軍配山まつり
- ・「宇津木代書」にみる玉村の戦国社会 平成23年度玉村歴史資料館企画展資料 榎大輔
- ・産経新聞(2020.11.10)
- ・朝日新聞(2020.11.7)